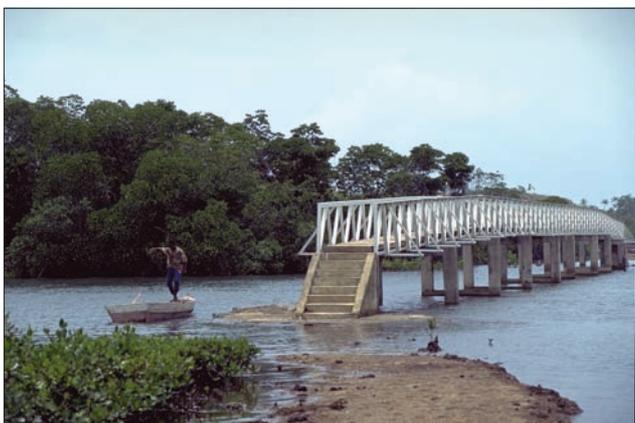


4 村から町へ そして地域へ：プロポアデザイン

プロポアデザインの必要性

プログラムアプローチ、プライオリティの設定などを通じて、具体的に実施すべきプロジェクトが明らかにされた場合、一般にこれまでの蓄積により、工学的なプロジェクトデザインは概ね支障なく実施可能である。しかしながら、貧困削減に資するプロポアなデザインについては、取り組みが少なく、特に配慮すべき事項がある。プロポアデザインの対象となるインフラプロジェクトのデザイン段階におけるプロポア化としては、2つのレベルがある。

つまり、貧困削減に直接貢献するようなプロジェクトデザインと、基幹経済インフラの貧困削減への効果を確保するような補完的な政策である。前者については、周辺環境や裨益層の社会的特性を把握して、貧困層のニーズを踏まえた総合的な取り組みを行う必要がある。また、後者の基幹経済インフラについては、開発途上国においては、誤った政策などにより、経済成長の成果が貧困層まで到達しない国がある。そのため、個々のプロジェクトが貧困削減・社会開発効果へと至るメカニズムを明らかにし、貧困削減のための補完的施策を更に積極的にデザインに取り込む必要がある。なお、デザインレベルでは、インフラのサービスが貧困削減に貢献するチャンネルや因果関係は未だ体系的には明確になっておらず、事前事後にその効果を把握することが重要である。



隣町へとつながる橋(フィジー)

プロポアデザインの考え方：4つのA

プロポアデザインの考え方は下表のとおりである。

プロポアデザインの考え方

Availability の確保：目的となる活動や機能を提供する、利用可能なサービスの有無

- 都市街路の貧困地区への接続(補完的施策)
- 共同給水場配置など貧困地区の公共公益施設の建設(直接的貧困削減)

Accessibility の向上：物理的・社会的なアクセス抵抗の低減

- 基幹道路に対するフィーダー道路の配置、分断する細道への影響緩和措置等(補完的施策)
- 基幹道路に対する農道整備、Farm to market 道路の改良(直接的貧困削減)

○港湾・水運でのローカル交通への配慮(補完的施策)

Affordability への考慮：支払い可能な負担でのサービスの提供

- 公共交通の私的交通に対する優遇政策(補完的施策)
- 水・電気・ガス等の個別引き込みのコスト低減、貧困層への補助金手当(直接的貧困削減)

Acceptability への配慮：文化や生活習慣への受け入れやすさの配慮

- Food for Work (FFW；労働のための食糧)等の農民参加による末端水路・農道・水利施設等の整備(直接的貧困削減)
- 灌漑施設の末端水路維持管理組織の構築(補完的政策)
- 女性が利用しやすい公共交通の提供(補完的施策)

JICA の取り組み

未だプロポアなプロジェクトは多くはない。小規模なものは比較的实施されているが、大規模なインフラのサービスを貧困削減に結び付けるような取り組みは十分ではない。JICA はこのような分野に着目し、貧困削減メカニズムの把握を行い、我が国の有償資金協力などとの連携による有効なデザインの策定・事業化・検証を図っていく。